



# 部を守れ!! OB各位の熱意沸騰

## —— 募金目標達成す ——

昨秋10月20日、緊急連絡で皆さんに大変な驚きとご心配をかけました火災事故(経過別掲)については、10月26日の特別募金お願い、11月13日付の中間報告で概要ご理解をいただいているとおりです。

被災された4軒のご家族にOBクラブとしてとに角誠意と熱意をもって出来るだけの力をつくすこと、それがひいては吾々の早稲田大学ヨット部を守ることでありとの共通認識の下に以後の対策活動をクラブ一丸となって展開して参りました。

現役部員は年内公式レース出場辞退し、練習も自粛いたしました。事故発生直後の現場整理やお手伝いも勿論いたしました。

被災者の方々との話し合いは並木理事長・木村事務局長が陣頭に立って進め、募金活動は土肥・松島・石川OBが舟岡OBのアドバイスを得つつ展開しました。

12月15日のメチ日をごえてもお入金が続いており、目標額は完全に突破いたしました。OB会費との区分点検など現在若干の確認事務を行っています。

内容詳細は来る1月27日の総会に於いて発表されます。

この募金に対する会員各位の関心は極めて高く、ある年長OBからは『年金の支給日は11月2日だが乏しい生活資金ではあるが何とか出したい』と募金委員の涙をさそう申し出もあり、又わざわざ地方より上京なさり『地方OBとしてどう協力したらよいか』等々、沢山の心づかいあふれる激励やご理解をいただきました。伝統である一朝有事の際のワセタヨット結束の強さを改めてひしひしと感じ入り関係者一同感激しております。皆さん本当にありがとうございました。

ご寄附いただいた方々のご芳名を別欄にお知らせいたします。(63年12月29日現在確認分)

尚、応募率は400人OB中238名で57%であります。

一方被災ご家族との話し合いは、今なお継続中ですが葉山町の矢部町内会長様(昭和22年校友)にお仲立ちをお願いし、大学顧問弁護士先生のご指導も得つつ進めています。興和火災に勤務の武藤OB(46年)の見解も充分参考にしつつ、度々緊急理事会を重ねて事に対処しております。

一日も早く被災者の方々のお怒りを鎮めたいと関係者一同念願しております。

尚、本件の結末がつきました暁には、本会報と別にクラブとして正式ご報告申し上げますこととなります。

### 《経過》

#### ▶昭和63年10月19日午後3時15分頃

秋季関東インターカレッジ(22日~23日)の為、ヨット部は葉山に移動し練習中借用していた臨時合宿所の合所より出火す。原因は2名の部員が夕食準備中の引火。合宿所は染物業仁木様二階建ての一階。隣接二階建二軒も全焼。更に一軒の二階建て半焼。不幸中の幸いは、けが人がなかったこと。殆んどの部員は海上で練習中だった為これ又被災者。

▶10月20日 ヨット部名で被災者にお見舞金を持参。

▶10月20日 緊急理事会。全OBに緊急連絡。部の謹慎と全OBの結束と協力を要請。臨時合宿所焼失対策特別募金運動を決定。

▶10月下旬以降 被災者側と再三の話し合い。

▶11月1日 臨時理事会。

▶11月17日 月例理事会。経過報告と対策協議。募金目標達成への協議、話し合い方針調整。大学当局意向と調整も。

▶10月下旬~12月 被災者側との話し合い。大学当局への報告と話し合い、再三。

——尚、事件の処理についての関係当局のご判断についても総会当日発表とします。

### 他校からも見舞い続々と

今回の事件は、秋のインカレ直前の練習中、海上から望遠出来る火災でもあった事から、他校にも大きな衝撃を与えました。

火災直後に関東学連や学連加盟の諸校、又近隣の商店等からお見舞金や食料、毛布、衣類等の差入れを頂き、その後も早稲田内外、多方面からお見舞いを頂いております。紙面の都合で明細は別の機会に発表させていただきますが、全会員と共に心から感謝の意を表したいと思っております。

# 特別募金一覽表

○数字単位は万円

10	小 沢⑩
12	森 繁④
13	藤 村④
14	新 名⑤ 山田④
15	水 元⑩ 間 瀬④ 長 医⑤ 田 原⑩
16	堀 江⑩ 西 原④ 堀 ⑩ 石 川⑤ 千 勝②
17	平 野② 大 井②
18	癸生川⑩ 田窪⑩
19	金 子② 渡辺⑩
20	坪 田⑩ 仲 山②
21	野 木④ 林 忠⑩
22	横 田⑩ 清 水⑩ 久留島⑩ 木 村⑩
23	林 ② 加 藤⑤ 犬 伏②
24	湯 沢⑩ 宮 本⑤
25	伊 井⑩ 石 川⑤
26	渡 辺⑩ 漆 原⑩ 小 俣⑥ 中 村④ 秋 山④ 上 田②
27	小 泉⑩ 石 垣④ 木 本④
28	石 井⑩ 村 瀬⑩ 円 谷⑩ 天 神⑩ 佐 伯② 河 村⑤
29	安 藤⑩ 米田⑩ 石 川⑤ 金 沢⑩ 米田⑩ 麻 野②
30	千 葉⑩ 松 本⑩ 遊 佐⑩ 武 村⑩ 浅 山② 岩 本⑩ 鈴 木⑩ 浜 田⑩ 斉 藤⑤
31	舟 岡⑩ 杉 山⑩ 安 井⑩ 日 色③ 益 田⑩
32	中 田⑩ 山 崎⑩ 天 神⑩ 梶 枝⑤
33	清 水⑩ 加 藤⑩ 山田⑤
34	並 木⑤ 泉 ④ 関 根⑤ 大河内④ 山 品⑩ 高 橋④
35	大 野⑩ 菅 山⑩
36	上 肥⑩ 原 田⑩ 吉 川⑩ 原 ④ 鈴 木⑩ 吉 田⑩
37	石 田⑩ 角 田② 伊藤⑩ 三 沢④ 原 田⑩ 小 沢②
38	安 藤⑩ 木 村⑩ 佐 野⑥ 堀 ⑩ 土 居⑥ 橋 本⑤ 倉 谷⑥ 川 島⑤ 中 島⑥ 山 崎⑤ 出 ⑤
39	古 内④ 稻 垣④
40	大 ⑩ 松 島⑩ 守 屋⑤ 山本⑤ 小 島⑥ 田中④ 杉 山④ 若 松⑤ 山 中⑥ 斉藤⑥ 千 葉⑥ 木 内④
41	石 井⑩ 岡 部⑤ 長 沢④ 清 水④ 森 ④ 後 藤⑤ 滝 ⑩ 斉藤③ 小 坂④ 小 浜⑤
42	石 川⑩ 石 合⑩ 中 村⑥ 岡 戸⑤ 金 刺④ 豊 田⑤
43	尾 本⑤ 冬 至⑤ 和 田⑤ 宇津木⑤
44	長谷川④ 山 内④ 須 藤② 長 門⑤ 高 須⑩ 山 木④ 伊 藤⑤
45	大 矢⑩ 北 島④
46	武 藤⑩ 福 高⑤ 斑 目⑤ 大 島⑤ 原 田⑤ 菊 池⑤ 藤 田⑤ 宮 本⑤ 竹 下⑥
47	町 田⑤ 山 田② 岩 本⑩ 尾原② 三 枝②
48	平 戸④ 宮 本④ 杉 井④ 樋 田④ 千 把② 春 日② 中 川⑤ 横 山④
49	高 松④ 坂 本② 三 塚② 藤 井④
50	赤 松⑤ 近 岡④ 恒 川⑤
51	冬 至⑤ 大 島④
52	岩 崎⑤ 角 田⑩
53	野 口⑤ 肖 田⑤ 酒 井⑤ 貝 出⑤ 光 武③ 渡 辺⑤
54	北 川⑤ 小 川⑤ 庄 島⑤ 松 下⑤
55	坂 瓜⑤ 伊 熊⑤ 喜多内④ 市 村⑤ 井 上⑤ 白 石⑤
56	中 島⑤ 香 田③ 戸 枝⑤ 川 上② 橋 ③ 川 瀬① 風 間④ 地 曳④
57	石 渡⑤ 小 池⑤ 芝 崎⑤
58	鎌 田⑤ 黒田⑤ 森 田⑤ 渡辺 <sup>(セリ)</sup>
59	小 野⑤ 黒田⑤ 市 井⑤ 佐々木⑤ 松 本⑤ 板 東⑤ 小 田⑤ 三 好⑤
60	瀬 川④ 小 山⑤ 梅 原④
61	芹 沢④ 入 江④ 若 月④ 小 宮④ 野 本⑤ 瀬 戸⑤
62	斉藤⑤ 久保田③ 宮 沢④ 松 下④
63	渡 辺④ 石 井④ 鈴 木④
④	矢頭先生⑩

下記掲載の通り、矢頭先生を含むO-B-239名よりの特別募金は¥16,060,000となりました。なお入金については、¥15,540,000の確認ができております。若干の確認事務及びO-B会費等との重複があるかも知れません。ご了承ください。(1989.1.6現在)

募金委員 土肥丈志・松島弘行

## 早・関 同点優勝

### 〈4大学OBレース〉

63年10月1日前夜祭、10月2日レース。本年は第18回目。早稲田当番にて頭をしぼって熱海開催となった。

新幹線なので集り易く、前夜祭も温泉に入った後ドテラで出来、全員宿泊で朝も統一行動がとれた。

レースも朝の厳しい風が徐々に年寄り向きになり、熱海ヨットクラブの皆様のご協力と、海からの熱海の風景が初めての方には予想以上に良かった。

レース後のパーティも海を見ながら愉快地やれ、大好評であった。

優勝は、早稲田と関学、同点2校1位。2位慶応、3位同志社。使用艇はトッパーとクルーザー。

〈参加〉小沢、円谷、米田晴、松本、浜田、舟岡、清水、並木、土肥、木村、大、新里

舟岡OBのミス・ニッポンが海から応援参加した。



4大学OBレース パーティ風景

## 関東Aクラス・レース

63年10月2日、葉山森戸沖。

昨年、早稲田当番で始めたこのレース。今年は、中央当番の第2回目。参加は早稲田、中央、明治、日大の4チーム。

当日は熱海の4大学OB戦とぶつかった為、こちらは石井26、千葉30の2名で頑張ることになった。

同日・同水域で、現役三大学戦(早・中・日)も実施している為、加藤監督はそちらで忙しい。

〈回航〉三戸浜から葉山森戸まで現役と回航。9月23日、NNE、3~4M、雨。A級は10:00AM 石井・千葉で。40分後スタートした現役各艇に佐島沖で追い越されたが3時半で森戸着。

〈前夜祭〉10月1日夜。逗子で中央大学OB好意の前夜祭。A級を愛する年輩OB多数参加で盛大。30年以上前の好敵手が膝を交えて痛飲。A級の話ばかり。今後一層A級の輪を拡げること意見一致。

〈レース〉1回戦を強行。上のマーク→流し込みフェニックス、なつかしいショート・レグ、元オリンピック選手の参加もあり白熱の中にも和気あいあい、リコール・ケース皆無の好レース。他校は新手のエースをレース毎に続々投入するのに、当方は2人合計113歳という参加チーム中の超ベテランの出ずっぱり。加えて前夜の痛飲がこたえて成績の方はさっぱり。マル秘とします。

当日は雨まじりの北の軽風3~6M、千葉OB大いに張り切り6Mの風にアクロバットをやるとオール2本を結束する元気。

〈来年度〉明治が当番。皆さん是非参加して下さい。(石井 章夫)

## 全日本インターカレッジ 4位

63年8月26日~28日、広島県宇品フェニックス・ヨット・ハーバー沖にて開催。不安定で弱い風に悩むレースとなった。

〈470〉①福岡大 ②同志社 ③関西学院 ④早稲田 ⑤中央 ⑥慶応

〈スナイプ〉①同志社 ②関西学院 ③福岡大 ④早稲田 ⑤慶応 ⑥中央

〈総合〉①同志社 ②福岡大 ③関西学院 ④早稲田 ⑤中央 ⑥慶応

尚、来年以降は、全日本インカレは真夏の無風時期を避け、11月中旬に挙行されることに決った。

本年の広島インカレに際し、三宅OB、渡辺OBにお世話になりました。御礼申し上げます。

## “夏の集い '88”

### 100名以上の大パーティ

63年7月31日、恒例の名物〈早稲田ヨットマン夏の集い '88〉は、三戸浜小島合宿所でにぎやかに開催。天気晴朗なれど、台風接近で波余りに高く出艇は中止となったのは残念だった。

河村OBお世話のサッポロビール、舟岡OBお世話のフランス焼酎、山崎OBご厚意のエスピーカレースナック数々、吉岡OBご手配、やけたまる漁協の海の幸。実行委員腕によりをかけてのパーベキューなどで、ご家族の皆さんにも楽しんでいただけた。

レースが出来なかったので景品は西瓜わりで配分。杉山オヂサンのリードで大変盛り上りました。'89の集いにも是非集りましょう!

### — 諏訪湖でヨット同窓会 —

## 10大学OBクラブ対抗レース

今年度より当クラブの正式参加行事とすることが総会で決定され、7名の強力メンバーで参加した。勝ちにいったが結果3位であった。

6月11日前夜祭、6月12日レース。毎回諏訪湖で開かれるこのレースは本年で2回目。長野県ヨット連盟さんが運営協力、諏訪市も後援して下さい。本年の参加者、小沢、浜田、中田、並木、木村、小池、市井。

参加クラブは、東大、明治、早稲田、横国大、立教、法政、慶応、中央、日大、関東学院(成績順)。

'89の第3回は6月3日前夜祭、4日レース。スナイプ・シーホッパー(案)。舵社盾、ヤマハカップが贈られる。振って参加されたい。

訃報

永田 恒君を悼む

永元作一 (昭和15年卒)

同期卒業の永田恒氏の訃報を聞いたのは、11月1日の永楽クラブの臨時理事会のときであった。葉山合宿所焼失の報をうけた未亡人より小沢会長が知らされた。

永田氏は8月26日、急性心不全で急逝された。入院して3日目のことであった。

氏の在学中の選手としての活躍ぶりは、50年史の「50年の航跡」に氏の寄稿「昭和13、4年のことごと」と「足速」を読むとよくわかる。理論的にも技術的にも当時の最高のテクニックを把握していた1人であった。その戦績はこの本の「躍進の時代」に村瀬兄と組んでの輝やかな記録に示されている。

また氏はマネージャーとして、当時の部の運営に尽力してくれた。特に当時は部員が50人から100人にも及んだ大世帯で、大幅な艇の建造に加え、スター紺碧の建造整備、クルーザーの保守等に多額の経費がかさみ、大さ

な借金をかかえこんだ。この借金を吾々の年次で完済し、後輩に迷惑をかけないため、氏の提案で交響楽団の演奏会を開催、卒業時はその成功で逆に余剰金を引継ぐことができた。

永田氏は静岡県袋井市の出身で、父は政友会の代議士の永田善三郎氏である。彼は吾々同期生の仲間では稀にみる秀才であった。旧制高千穂中学を4年修了で第一学院に入学、ヨット部員としてはすべての練習、合宿に参加し、選手として活躍していたので、授業にも出られなかったと思われたが、政経学部卒業のときは銀時計を買っている優秀な学生であった。

卒業と同時に難関で当時有名だった海軍主計科士官に合格し、海軍で終戦を迎えた。戦後は東京でビル等の事業、静岡での事業等を経営のほか、日本クレイ射撃協会、日本フィールド、トライヤル協会の役員を長くつづけ、斯界に貢献された。

享年70歳、法名は鳳翔院恒徳猷賢居士である。謹んで御冥福を祈る次第です。

ガンバレ ニッポン!!



カンバレ ニッポン応援団

アメリカンズ・カップ ニッポンチャレンジの合宿は蒲郡で武村洋一OBをヘッドにして頑張っています。

ガンバレ タケムラの応援団が、ある日蒲郡を訪問。昼夜をわかたぬ熱烈応援。昼はモータークルーザーで三河湾を快走。夜は夜でご想像の通り。地元山内OB、名古屋からの村瀬さんご夫妻と地曳OB。ありがとう。



大学教職員のための  
大型ヨット・スクール成功!!

63年度は、6月17日～19日と10月14日～16日の2回実施。葉山マリーナをベースにして、葉山・江の島沖にて稲龍で実施。

稲龍委員長・杉井艇長を中心に指導チームを編成した。秋の部は9月の長雨のあと幸運にも快晴・快風となり、効率の良い指導が出来た。杉井氏の他杉山、酒井、貝出、森田、斎藤、又返子マリーナからデインギン・シーマリンで遊佐、米田が海上応援した。



稲龍・洋上税制懇談会

いろいろなメンバーが稲龍でセーリングを楽しみました。

或る日、参議院の野末陳平さん(29年校友)も来られ油壺・葉山往復に参加。時ならぬ税制談議に花が咲いた。



★OBクラブも現役も着々盛り上がり底辺拡大という時、思いもかけない大事件が起ってしまった。保険の重要性、学生合宿のあり方から始まって、いろいろな事が考えさせられます。冷静に根本に立帰って指導・運営も考えるべきなのでしょうか。

★年内発行の予定が、大事件の為扱いが難しく年を越しての発行になりました。この編集は、昭和64年1月7日深夜に終わりました。ナント昭和の最後の日です。

★ヨット部の再建に力をかそう!と金沢キャプテン(29)からの賀状をいただきました。この言葉を皆さんにも贈ります。平成の世の新しいヨットクラブを皆さんと一緒に。

★OB総会 1月27日 永楽クラブ。全員ご参加を。

(文責・米田晴二)

